

音楽科学習指導案

指導者 岡本 礼

- 1 日時 平成18年7月7日(金) 2校時
- 2 学級 2年3組 男子20名 女子16名 合計36名 北校舎2階 第1音楽室
- 3 題材 アカペラの魅力

4 題材について

本題材では、学習指導要領第2学年及び第3学年A表現(1)工『声部の役割を生かし、全体の響きに調和させ合唱や合奏をすることをねらいとしている。2年生は、昨年度の学習でいくつかが混声三部合唱を取り組むのは、やや困難な面もある。しかし、間もなく校内合唱コンクールがある。この時期に入声活動への取り組みをより積極的に表現するための技能の向上につながると考え、本題材を設定した。アカペラに今後音楽活動にも生かされるものと予想される。使用する教材は、「学生歌」「若人の歌」の2曲である。どちらも短時間で音取りができる短い曲である。「学生歌」は無伴奏の混声四部合唱、4分の3拍子・八長調。各パートのリズムが同じで、混声四部のハーモニーを味わうことができる。「若人の歌」も無伴奏の混声四部合唱、4分の4拍子・変口長調。この曲は歌い出しがユニゾンで、各パートの音色をそろえることが求められる。

生徒たちは、合唱に意欲的に取り組んでいる。多くの生徒が明るい声で元気よく歌うこと、リーダーを中心にパート練習に取り組むことができている。また、アンケート(36名中35名に実施)の結果から、ほとんどの生徒が日常生活においても自分が興味を持った音楽に親しんでおり、音楽の結対する関心は高いことがわかった。合唱については「好き」(16人)または「まあまあ好き」(15人)と答えている。しかし、実際に歌っている様子からは、中音域においての女子の地声が目立つことや、高音域では女子は響きが無くなり、男子はのどをしめて苦しそうな発声になることなどの課題もみられる。また、前述したとおり変声途中の男子も多し、他のパートにつられまいと一生懸命に地声になろうと努力している。また、地声にならざるを得ない状況で歌われているかといった点については十分に聴き取れていないことがある。もしくは、実際に音程で歌われているかといった点については十分に聴き取れていないことがある。もしくは、表面的に相手を讃えて終わってしまうこともしばしば見られる。

そこで、この題材を通して自分たちが目指す合唱の目標をより具体的に意識させたいと考える。また、目標を達成するために課題をしっかりと追求させ、全体に調和させる声の出し方等の技能を身につけさせ、一人一人の声が調和することによって生まれる美しい響きを感じ取らせたい。そのため、自分たちの演奏を録音して客観的に聴いたり、他の学級や学校との比較を行うことで課題に気付かせ、必然性を持って練習に取り組んだり、工夫を考えたりすることができると考えている。

5 指導と評価の計画(別紙)

6 本時の目標

音楽への関心・意欲・態度	自分たちの演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和に関心を持って表現することに意欲的である。
音楽的な感受や表現の工夫	自分たちの演奏を客観的にとらえ、そこから感じ取った自分たちの課題を明らかにして、全体の響きに調和させるように合唱表現を工夫している。
表現の技能	自分たちの演奏を客観的にとらえ、全体の響きに調和させる合唱表現の技能を身につけている。

7 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

調和のとれたハーモニーや、アカペラに取り組む上で目標にしたいことについて、生徒は「きれいに八モっている」という表現をしている。そこで、自分たちの演奏を客観的に聴いてみて、「きれいに八モっている」のか、を考えさせる活動を行う。中には、自分たちの演奏を的確に聴き取れない生徒もいることが予想される。したがって、同じ中学生が歌っている模範のCDを聴かせ、自分たちの演奏と比較することで、課題を明らかにさせる。ここで大切なのは、「なぜ八モっていると感じるのか、または感じないのか」という点である。響きが調和しない原因はいくつか考えられるが、ここでは今後の合唱活動のよりどころとなるよう、複数の課題が挙げさせたい。本時では「学生歌」を中心に扱うが、楽譜や曲の短さなどから、生徒にとっては「簡単な曲」という感想が見られた。他校の演奏と自分たちの演奏を比較させることで、これらの曲の難しさややりがいを感じさせながら取り組ませたい。

(2) かかわり合いを生かす手だてについて

本題材における「必然性」は、聴く人の心を打つような合唱がしたいという生徒の願いにある。また、この時期は校内合唱コンクールに向けての意欲付けの時期でもあり、確かな技能を身に付けることで表現の幅を広げ、一人一人が持つイメージを自信を持って表現させるための取り組みとし、このことを生徒に押し込めさせるために、この題材への導入時に合唱コンクールや日常の合唱活動における目標を再確認させた。また、自分たちの演奏と模範の演奏を「よりどころ」として、課題を明らかにさせる。この時、一人一人の感じたことを全体で共有できるように、できるだけ多くの生徒に発言させたい。この際、課題を指摘するだけでなく、その解決のためには、どのように工夫したらよいと思うかを、「声の響き」「音程」「音量と、そのバランス」「発声の仕方」等の視点に基づいた「ことば」にできるように、心がけて指導したいと考えている。

8. 本時の展開

< A > 達成度 < B > 学習速度 < C > 取り組み方(学習の仕方)
 < D > 見方・考え方 < E > 興味・関心 < F > 生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態 教材・教具
導入	課題把握までの手がかり 課題確認	15分	1. 既習曲を歌い、音楽に取り組む雰囲気を作る。 2. 前時にMD録音していた自分たちの合唱と、他校の演奏CDを聴き比べ、自分たちの合唱が美しいハーモニーになっているかを考え感じ取ったことを発表させる。 3. 本時の学習課題を把握する。 本時の学習課題 みんなの声を良く聴いて、もっとハモろう		1. 良いところを褒め、前向きで明るい雰囲気が作られるようにする。 2. 聴き取るよりどころは、「全体が美しいハーモニーになっているか」生徒の言葉では「きれいにハモっている」かどうか。この点に注意して聴くようにさせる。 < D >	MD CD
展開	課題追究	30分	3. 自分たちの演奏の中でどこが美しく感じられないのか、どうすれば「もっとハモる」ことができるか、範唱CDと自分たちの演奏を聴き比べたことをよりどころとして考え、発表する。 4. 書き込んだ楽譜をよりどころとして、全体で練習に取り組む。 ・パートごと ・列ごと ・女子 ・男子 等で練習 5. 歌っていない時は、他の練習を良く聴く。 良くなっているところや、もっと工夫した方がいいことを発表する。 6. 練習したことを生かしてまとめの合唱をし、再度録音する。	3.【音楽的な感受や表現の工夫】 自分たちの合唱で美しく調和していない箇所やその理由に気づき、より美しいハーモニーにするために何に気をつければよいか、発表したり説明したりできる。 発表内容 A：声のまとまり 一体感 他のパートを聴く 喉を楽に やわらかい発声 C：他の意見で自分がよいと思ったものに挙手させる。	3. 生徒が発言したことを拡大楽譜に書き込んでいく。 ・ の部分の音程が合っていない ・ の音量が弱い or 強い ・ 地声 等 自分のパートだけでなく、全体の響きが美しいかどうか感じ取らせたい。	黒板 拡大楽譜
終結	まとめ	5分	7. 録音した演奏を聴き、感想を発表する。		7. 教師からも全体を通して活動の中で良かった点や向上したことを明らかにし、次の題材への意欲を持たせる。 < E >	

2年 音楽		題材名 アカペラの魅力			総時間 4時間扱い	
学習指導要領の指導事項 A 表現 エ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること						
題材の目標		主な学習活動	評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
・アカペラの表現を通して、全体の響きに調和させるよう工夫して合唱に取り組む。		パート練習で音取りをする。 話し合いを通して自分たちの課題やより良い表現のための工夫を明らかにする。 全体の合唱練習でより美しい響きのある合唱を目指す。	B = 「おおむね満足できると判断される状況」	アカペラの合唱に興味を持ち、演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和に関心を持ち、合唱表現をすることに意欲的である。	演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現を工夫している。	演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現する技能を身につけている。
			A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	歌いながら他のパートについても関心を寄せ、中心となって活動している。	工夫すべき点や、工夫の仕方についての確に数多く挙げ、パート練習を活発にしている。	一人、または各パート一人ずつのアンサンブルで範唱することができ、その表現が聴く側の心を動かすものである。
			C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例	目標を持たせるために、アカペラのより美しい演奏をCDなどで聴かせる。	他の意見でよいと思ったものを挙げさせ、その工夫に取り組むようアドバイスする。	個別に歌い方のアドバイスを行う。
次	時	主な達成目標	主な学習活動	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
1	2	アカペラに興味を持ち、教材曲の音取りをパートごとに協力して行うことができる。	・パート練習	アカペラの合唱に興味を持ち、意欲的にパート練習に取り組む。	パートごとの演奏を聴いて、気付いたことや感じたことを生かして、工夫しながら練習している。	
2	2 本時 2 / 2	自分たちの演奏を客観的に聴き、課題を明らかにして表現を工夫し、より美しい響きのある合唱を行うことができる。	・話し合い ・全体練習	自分たちの表現がより良いものになるように意欲を持って、工夫したり表現したりしている。	自分たちの演奏を客観的にとらえ、そこから感じ取った課題を明らかにして、全体の響きに調和させるように、正しい音程で歌うことやパートのバランスを考えて歌うこと、地声にならない歌い方などに気をつけて合唱表現を工夫している。	自分の演奏を客観的にとらえ、全体の響きに調和させる表現の技能を身に付け、それを生かして合唱している。